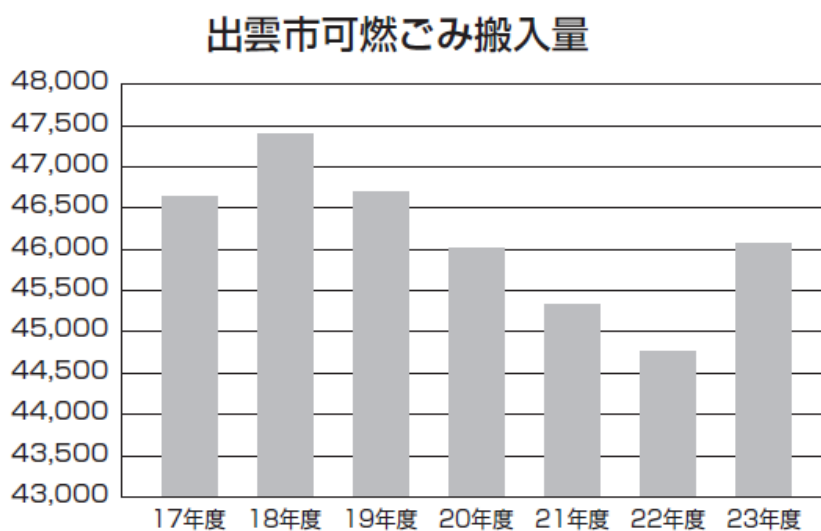


発行／出雲市文化環境部環境政策課減量推進係 E-mail:kankyoseisaku@city.izumo.shimane.jp

〒693-8530 出雲市今市町70 ☎0853-21-6988 FAX 0853-21-6597

出雲市では、市民の皆さんにごみの現状を知ってもらい、ごみ減量・資源化施策などをお知らせする「出雲ごみダイエット通信」を発行することにしました。なかなか減らないごみの問題について、いっしょに考えてみませんか。

ごみ減量化にご協力を！ ～可燃ごみが増えています～



数値は、合併前の斐川町分も含めた出雲エネルギーセンターへの搬入量
(単位はトン)

平成18年度以降、可燃ごみの減量が進んでいた出雲市では、平成23年度再び増加に転じ、残念ながら今年度になっても、その傾向は続いています。資源ごみの分別とともに、一層のごみ減量にご協力をお願いします。

区分	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
出雲市	46,647	47,394	46,689	46,004	45,334	44,770	46,062
前年度増減	-1,013	747	-705	-685	-670	-564	1,292

平成24年度(4月～7月)可燃ごみ

区分	4月	5月	6月	7月	合計
H24年度	3,787	4,151	4,015	4,257	16,210
H23年度	3,628	4,063	4,077	4,041	15,809
前年同月増減	159	88	-62	216	401

今年度は、すでに401トン(対前年比)増加しています。

※この記事は、広報いずも2012年7月20日号から一部転載しています。

家庭でできる可燃ごみ減量策！

①無駄なものは買わない！

買い物に行く前に冷蔵庫にあるものや消費期限をチェックし、本当に必要なものを買しましょう。安いからといって買いすぎないことが大切です。



②生ごみのひとしぼりの習慣を！

7・8月は、すいかの皮など水分を多く含んだ生ごみが発生します。生ごみの70%が水分と言われています。ごみを出す前に「ぎゅっとひとしぼり」が減量効果抜群です。

生ごみの水分を取り除くことで悪臭・腐敗防止の効果があるとともに可燃ごみの減量につながり、ごみ袋の使用量を減らすこともできます。



③雑紙もリサイクルに！

ティッシュの箱、菓子箱、食品の外箱、パンフレット、リーフレット、カレンダー、包装紙、事務用紙、メモ用紙、封筒（窓付きの封筒はビニールを取り外す）、ラップの紙芯など、可燃ごみで捨ててしまいがちですが、これも立派な資源です。ひもでしばって、決められた日にリサイクルステーションに出しましょう。ただし、次の紙類はリサイクルできません。

※銀箔パック、感熱紙、カーボン紙、ビニールコート紙など

そのほかに市では、割りばし回収や廃食油回収も行っています。皆様のご協力で住みよいまちを作っていきましょう。



小さな雑紙は紙袋に入れて、ひもでしばって出してください。

※この記事は、広報いずも2012年7月20日号から一部転載しています。

こども環境学習教室を開催しました



市では、子どもたちに環境問題やごみ問題への関心を持ってもらおうと、7月28日に出雲環境センター（西園町）で「こども環境学習教室」を開催しました。当日は、小学4年生の児童と保護者の10組が参加。市ごみ減量アドバイザーの今岡愛子

さんが講師を務め、ダンボールコンポストづくりに取り組みました。

ダンボールコンポストとは、生ごみを堆肥にするダンボール製の装置のことで、みかん箱など使用済みのダンボール箱の中におがくず、もみがらのくん炭を入れて、その中に生ごみを入れると発酵分解が進み、数日経過すると生ごみが消えてなくなります。最初の生ごみ投入から2.3ヶ月後に発酵分解が遅くなれば、そこから1ヶ月程度そのままの状態に置くと肥料が完成します。

今回の教室では、ダンボール箱を組み立て、コンポストをおおう防虫用のTシャツを加工しました。参加者からは、「ダンボールで生ごみが肥料に生まれ変わるってすごい！」「生ごみの簡単な処理方法が分かったのでやってみたい」といった声がありました。

市では、今回のような環境教室を開催するなど、今後も積極的にごみ減量化につながる施策に取り組んでいきます。

（次頁以降で作り方を紹介します）



ダンボールコンポストの作り方

用意する物

○ダンボール箱（容器）

- ・みかん箱程度の大きさ 1 個（縦 30cm×横 45cm×高さ 30cm程度）
- ・底を二重にして補強するため、底の広さ以上のものを 1 個

☆ポイント

生ごみには水分が含まれています。分解された生ごみは、水分と二酸化炭素を排出します。これらの水分は、ダンボール箱の全面から蒸発しますが、無地の（塗料や柄の無い）ダンボールの方が蒸発しやすい（通気性が良い）ようです。

○紙製のガムテープ

☆ポイント

布製のガムテープより、紙製のガムテープが適しています。

これは、紙製のガムテープの方が、水分を蒸発させやすいからです。

○カッター

○マジック

【今回、用意したものです】



作り方

- ①ダンボール箱の底、つなぎ目、手で持つ部分をガムテープで止めます。



- ②二重底を作ります。

ア.マジックで底の大きさの線をひく。



イ.線に沿ってカッターで切る。



ウ.切り取ったダンボールを底にはめると



エ.出来上がり！



虫よけキャップの作り方

暖くなると小ハエが発生しやすくなりますが、虫よけキャップでダンボールコンポストをおおうことで予防することができます。

用意する物

○着古した大人用のTシャツ（色、柄の有無は問わない）

☆ポイント

ダンボール箱（容器）は、様々な大きさがあるため、伸縮性のある素材のものが、より適しています。

○裁縫道具（針・糸）

○ハサミ

○マジック（色、油性・水性は問わない）

【今回、用意したものです】



作り方

ア. Tシャツを裏返し、胸の部分をハサミで切ります。（あらかじめ、マジックで切り取り線を書いておくと、簡単に切れます。）



イ. 切った胴の部分を左右にひろげ、
両左右の上部を縫います。(縫う
のは、赤線部分です。)



ウ. 余分な部分をハサミで切ります。



エ. 広げて、上部の開いた部分を縫い。
ます。(縫うのは、赤線部分です。)



オ. これをダンボールコンポストにかぶせ
ると・・・



カ. 出来あがり！



ダンボールコンポスト 資材の投入

用意する物

○ダンボールコンポスト ○おがくず 10 L ○くんたん 7.5 L

※「おがくず」と「くんたん」は、4 : 3の比率で使用します。両方ともホームセンター等で販売しています。

【今回、用意したものです】



作り方

ア. ダンボールコンポストに、「おがくず」と「くんたん」を入れます。

イ. 「おがくず」と「くんたん」をかき混ぜます。(箱を傷つけないように注意してください)



ダンボールコンポスト 生ごみの投入

用意する物

○生ごみ500g程度

☆ポイント

投入量は、最初は500g程度です。

1～2週間すると発酵・分解が進んで

土中の温度が40度くらいまで上がれば、

1kg程度入れても大丈夫です。



作り方

ア. 生ごみを小さく切ります。(野菜くずなどは、なるべく小さくした方が、発酵・分解が早くなります。)



イ. 生ごみをダンボールコンポストに投入します。



ウ. 投入した生ごみを良くかき混ぜます。



エ. 混ぜ終わったら、虫よけキャップをして、風通しの良いところに置きます。



ダンボールコンポストQ&A

Q1: どうして生ごみから肥料ができるの？

A 1 : 生ごみや、もみがら、くんとんに付着している様々な微生物が、自然に発酵・分解し、肥料（植物にとって有用な養分）になります。

Q2: どうしてダンボールが良いの？

A 2 : 生ごみを発酵・分解させるためには、生ごみに含まれている余分な水分を除去する必要があります。ダンボールは通気性に優れており、水分を蒸発させる高い効果があります。

Q3: どんな物を入れたらいいの？

A 3 : 生ごみなら何でも入れられます。野菜くずなどは、なるべく小さくした方が、発酵・分解が早くなります。また、分解しづらいものは多量に投入しないほうが良いようです。下記の一覧表を参考にしてください。

分解しやすいもの	分解しづらいもの	分解されないもの
<ul style="list-style-type: none">・ 野菜くず・ 果物の皮・ 魚の骨や内臓・ 肉類・ 食べ残しなど	<ul style="list-style-type: none">・ 鳥や豚の骨・ シジミやアサリの貝殻・ トウモロコシの芯・ 玉ねぎの皮・ 水分が多い物 など	<ul style="list-style-type: none">・ 金属類・ 腐敗したもの・ ガラスの破片・ 箸やつまようじ・ ラップやアルミホイルなど

Q4:どのくらい生ごみを投入すればいいの？

A 4 : 生ごみを投入するのは、1日1回です。投入量は、最初は500g程度です。1～2週間すると発酵・分解が進んで土中の温度が上がり、40度くらいになれば1kg程度入れても大丈夫です。温度計はなくても構いませんが、あれば発酵・分解の状況を確認できます。

Q5:生ごみを投入するほかに、何をすればいいの？

A 5 : 生ごみを入れたら、手袋をした手やスコップで隅々までかき混ぜてください。これは、生ごみが発酵・分解をするために必要な空気を土中に入れるためです。なお、蒸発しきっていない水分でダンボールが弱くなっている場合は、ダンボールを傷めないように気をつけてください。

Q6:土中の温度が上がらないけど、どうしたらいいの？

A 6 : 温度が上がらないのは、発酵・分解が進んでいないからです。このような場合は、米のとぎ汁、廃食油、糖類などを入れてかき混ぜると、50～60度になります。

Q7:臭いはないの？

A 7 : ダンボールコンポストでの堆肥作りは、驚くほど臭いがありません。もし、臭いが発生した場合は、生ごみの投入量が多すぎて水分過多になっているか、生魚・肉類などの投入量が多くてアンモニアガスが発生していることが考えられます。このような場合は、一時的に生ごみの投入を中止して、手やスコップなどでよく混ぜて微生物の発酵・分解の促進を図りましょう。1～2日で臭いが収まります。

Q8:虫(小バエ・ウジ虫など)が発生した場合

A 8 : A 6 の処理を行うと温度が50～60度に上昇し、虫が死滅します。それでもダメな場合は、大きなビニール袋にダンボールコンポストの中身を全部移し、袋の中の空気を抜いて天日干しにしてください。日差しが強ければ、1日で虫は死滅します。

Q9:いつ肥料になるの？

A 9 : 最初の生ごみ投入の2～3ヶ月後(生ごみの総投入量が60～100kg)から、次の状態かどうかを確認してください。

- ・生ごみを投入しても温度が上がらない。(分解が遅い)
- ・中身が黒っぽくなる。
- ・資材がもっちりとなる。
- ・アンモニア臭がする。

このような状態になれば、ダンボールコンポストの中で1ヶ月程度ねかせます。分解していない生ごみが多い時は、週1回程度水分を加えてよくかき混ぜます。乾燥したら肥料の出来上がりです。